



## 2023年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月9日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東  
 コード番号 6425 URL <https://www.universal-777.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO兼C10 (氏名) 富士本 淳  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055  
 四半期報告書提出予定日 2023年8月9日 配当支払開始予定日 2023年9月29日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年12月期第2四半期の連結業績（2023年1月1日～2023年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第2四半期	79,305	40.8	10,726	—	28,405	111.5	20,952	209.5
2022年12月期第2四半期	56,323	96.8	833	—	13,428	—	6,768	—

(注) 包括利益 2023年12月期第2四半期 39,552百万円 (158.2%) 2022年12月期第2四半期 15,317百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第2四半期	270.41	270.37
2022年12月期第2四半期	87.36	87.35

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年12月期第2四半期	641,057	388,867	60.7	5,017.94
2022年12月期	596,177	349,315	58.6	4,507.48

(参考) 自己資本 2023年12月期第2四半期 388,809百万円 2022年12月期 349,257百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年12月期	—	40.00	—	—	—
2023年12月期（予想）	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無  
 2023年12月期（予想）期末配当は、未定としております。

### 3. 2023年12月期の連結業績予想（2023年1月1日～2023年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	180,000	27.7	23,500	94.5	25,700	84.5	20,000	73.8	258.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2023年12月期第2四半期の経常利益28,405百万円は、2023年5月12日公表の「2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載の通期連結業績予想における経常利益25,700百万円を超えておりますが、ウクライナ情勢の影響など、昨今の為替相場の変動等の要因を考慮し、2023年度12月期通期連結業績予想を据え置いております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年12月期 2 Q	80,195,000株	2022年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2023年12月期 2 Q	2,711,096株	2022年12月期	2,711,046株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年12月期 2 Q	77,483,949株	2022年12月期 2 Q	77,483,999株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(5)連結業績予想について」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(5) 連結業績予想について	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(会計方針の変更)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結損益計算書注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書注記)	10
(5) 追加情報	10
(6) 重要な後発事象	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

2023年12月期 第2四半期累計	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益
個別(百万円)	31,855	2,878	5,716	3,083
連結(百万円)	79,305	10,726	28,405	20,952

遊技機事業においては、6.5号機ならびにスマートパチスロの導入が進んでおり、パチスロ6号機初のGODシリーズ『アナザーゴッドハーデス-解き放たれし槍撃ver.-』等の市場導入が開始され、販売台数は76,386台となりました。統合型リゾート(IR)事業では、海外からのお客様の来場者数増加やフィリピン国内でも人気のある飲食店の誘致等により、オカダ・マニラの業績は堅調に推移しております。

また、賃貸借契約解除に伴う賃貸借契約解約益、リース解約益の計上、円安ドル高の進行による為替差益の計上もありました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は79,305百万円(前年同期比 40.8%増)、営業利益は10,726百万円(前年同期 営業利益833百万円)、経常利益は28,405百万円(前年同期比 111.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は20,952百万円(前年同期比 209.5%増)となりました。なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

## ①遊技機事業

当第2四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は30,793百万円(前年同期比 12.8%増)、営業利益は7,685百万円(前年同期比 49.6%増)となりました。

当第2四半期における市場環境は、パチスロ機においては6.5号機ならびにスマートパチスロが引き続きパチンコホールの期待に応える稼働を維持し、稼働水準の回復を後押ししている状況が続いております。またパチンコ機においては、ゲーム性の幅が広がったスマートパチンコの市場導入が開始されました。

かかる状況下で当社は、パチスロ機においてはGODシリーズ最新作『アナザーゴッドハーデス-解き放たれし槍撃ver.-』、人気アニメ著作権を用いた初の遊技機化となる『SLOTメイドインアビス』の新機種2タイトルを市場導入いたしました。パチンコ機においては『Pやじきた道中記』の市場導入を行いました。なお、当第2四半期連結累計期間における総販売台数に関しても、当社はパチスロ機販売台数上位のシェアを確保しております。

## ②統合型リゾート(IR)事業

当第2四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高<sup>(1)</sup>は47,944百万円(前年同期比 68.0%増)、営業利益は7,313百万円(前年同期 営業利益417百万円)となりました。また、当第2四半期における調整後EBITDA<sup>(2)</sup>は15,069百万円(前年同期比 96.2%増)となりました。

当社グループが運営する統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」は、フィリピン政府による新型コロナウイルス感染症対策に係る規制と緩和に対応しながら運営を続け、第2四半期においても引き続き業績は堅調に推移しました。フィリピン国内でも人気のある飲食店の誘致が進み、「RED SPICE」や「割烹 今村」等のオカダ・マニラ直営レストランとも競合することなく、互いに相乗効果を生んでおります。このようなリテイル施策に加えて、「コープ・マニラ」を利用したディケーションプラン等のサービスを提供することで、施設全体の来場者数の増加に寄りました。

その結果、第2四半期は非常に高い調整後EBITDAを記録し、第1四半期に続きパンデミックによる不況からの着実な回復と成長を見せております。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したものと

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費 + その他の調整項目

## ③その他

当第2四半期連結累計期間におけるその他の売上高は431百万円(前年同期比 4.9%増)、営業利益は188百万円(前年同期 営業損失28百万円)となりました。

メディアコンテンツ事業においては、GODシリーズ最新作『アナザーゴッドハーデス-解き放たれし槍撃ver.-』のシミュレータアプリをApp Store・Google Playにて配信し、有料アプリ・ゲーム・カジノカテゴリーでダウンロードランキング1位を獲得するなど、大変好評を博しております。月額制サービスの「ユニバ王国」では『沖ドキ!GOLD』を配信し、基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」においても、オリジナルビデオスロット『スロストパーティー』を追加しました。楽曲配信では、主要サイトApple Music・Spotify・

YouTube Musicをはじめとする24サイトにて、5月10日の「ミリオンゴッドの日」に合わせて『アナザーゴッドハーデス-解き放たれし槍撃ver.-』の配信を行いました。いずれのサービスも、機種数及び楽曲数を増やすことでユーザーの新規獲得と満足度向上に努めております。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における財政状態については、以下のとおりです。

総資産の額は、円安ペソ高により固定資産が増加、賃貸借契約解除に伴う関係会社長期未収入金の増加があった一方、リース資産の減少、繰延税金資産の取崩による減少、持分法投資損失の計上による投資有価証券の減少により、前連結会計年度末に比べて44,880百万円増加し641,057百万円となりました。

総負債の額は、連結子会社における長期借入金の返済による減少、未払金、未払費用の減少があったものの、円安ペソ高の進行によるリース債務の増加、円安ドル高の進行による社債の増加により、前連結会計年度末に比べて5,327百万円増加し252,189百万円となりました。

純資産の額は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により増加、為替換算調整勘定についても円安ペソ高により増加したことで、前連結会計年度末に比べて39,552百万円増加し388,867百万円となりました。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、減価償却費、持分法投資損失、賃貸借契約解約益、リース解約益、円安ドル高の進行による為替差益、リース並びに借入金の支払利息・社債利息の計上により増減しました。また売掛債権の減少、持分法適用会社からの短期貸付金・長期貸付金の回収により増加した一方、社債・リース・借入金の利息支払、工事前渡金に伴う支出（有形固定資産の取得による支出）、長期借入金の返済の支出により減少したこともあり、前連結会計年度末に比べて912百万円増加し、36,705百万円となりました。また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及び主な増減要因は次のとおりであります。

### <営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動によるキャッシュ・フローは、6,494百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益 28,425百万円、減価償却費 8,401百万円、持分法投資損失 6,773百万円、支払利息・社債利息 7,185百万円、賃貸借契約解約益 18,698百万円、リース解約益 4,150百万円、為替差益 8,722百万円計上した他、売上債権の減少に伴い3,515百万円、利息の支払額 6,686百万円によるものです。

### <投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,803百万円の支出となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出 5,592百万円、短期貸付金の回収による収入 1,500百万円、長期貸付金の回収による収入 208百万円によるものです。

### <財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動によるキャッシュ・フローは、4,146百万円の支出となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出 3,677百万円によるものです。

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

### ①遊技機事業

遊技機業界における市場環境は、パチスロ機においては幅広いユーザーに支持される新たな6.5号機やスマートパチスロの市場導入、パチンコ機においてはゲーム性の幅が広がったスマートパチンコの本格的な市場導入に伴い、さらなる市場の活性化が期待されております。

第3四半期においては、コラボ機種初のスラスロとして株式会社カプコンとの業務提携による遊技機第5弾『スラスロ 戦国BASARA GIGA』の市場導入が始まり、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの国民的野球ゲームをモチーフとした『ファミスタ回胴版!!』の販売を開始しました。パチンコ機では『Pアナザーゴッドハーデス-狂乱-』の市場導入、『Pハイスクール・フリート オールスター』の販売を開始しました。なお、いずれの機種もパチンコホールから高い評価を得ており、受注台数は順調に推移しております。

当社は引き続き、独自性のある魅力的な遊技機創出に努めてまいります。またその魅力ある遊技機を通して、遊技機業界全体の活性化に貢献するとともに、販売シェアの拡大に努めてまいります。

(ご参考) 2023年12月期 パチスロ・パチンコ販売台数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期(受注済)	第4四半期
販売台数(台)	24,903	51,483	36,000	未定

(注) 第2四半期までの実績については、「2023年12月期 第2四半期決算補足資料」

( <https://www.universal-777.com/corporate/ir/library/result/> ) をご参照ください。

## ②統合型リゾート(IR)事業

2023年12月期は、新型コロナウイルス感染症による旅行などへの影響が減少し、海外からの訪問者数の回復基調が続くと予想されます。フィリピン観光省の発表によると2023年の海外観光客の目標数は約480万人でしたが、6月までに247万人を達成しており、下期には、夏休みやクリスマスシーズン等でさらなる増加が予想されます。

かかる状況下でゲーミング事業においては、すべての会員を対象に毎週抽選で旅行賞品(マニラ行きの航空券/バスチケット、ホテル宿泊券)が当たる「Okada Manila Go」キャンペーンを開催し、フィリピン国内外でのオカダ・マニラブランドの認知度向上に努めてまいります。現在、フィリピン国内に向けてのみ実施しておりますが、今後は海外会員向けにも拡大する予定です。併せて海外観光客の誘致を目的としたアジア各国でのマーケティング活動も積極的に実施してまいります。

また、引き続きフィリピン国内顧客層の拡大を目指し、国内向けのオンラインゲームの規模拡大に注力し、マニラのあるルソン島以外からの国内需要を取り込み順調に成長しております。非ゲーミング事業においても、クリスタルコリドーを利用した大型イベントの開催を継続することで、来場者数の増加を見込んでおります。

フィリピン最高裁判所が発出したSQAQ(Status Quo Ante Order: 原状回復命令)の撤回については、フィリピン弁護士団が継続的に必要な法的手続きを行っており、引き続き判決等を待っている状況です。今後公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

## ③その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続き高品質なシミュレータアプリや楽曲の配信を行ってまいります。月額制サービスの「ユニバ王国」及び基本プレイ無料のソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」でも、コンテンツの拡充とサービスの改善、ユーザー満足度の向上に努めてまいります。

## (5) 連結業績予想について

2023年12月期第2四半期の経常利益28,405百万円は、2023年5月12日公表の「2023年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載の通期連結業績予想における経常利益25,700百万円を超えておりますが、ウクライナ情勢の影響など、昨今の為替相場の変動等の要因を考慮し、通期連結業績予想を据え置いております。修正が必要であると判断した場合には速やかに公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	35,895	36,816
受取手形及び売掛金	9,707	6,258
有価証券	2,179	2,447
商品及び製品	2,652	2,984
仕掛品	14,328	13,998
原材料及び貯蔵品	10,644	12,537
その他	13,187	14,865
貸倒引当金	△787	△838
流動資産合計	87,807	89,068
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	341,483	364,704
建設仮勘定	6,212	6,983
リース資産(純額)	49,363	51,775
その他	35,229	36,430
有形固定資産合計	432,289	459,894
無形固定資産		
その他	1,112	1,281
無形固定資産合計	1,112	1,281
投資その他の資産		
投資有価証券	16,265	10,414
長期預け金	8,179	8,938
関係会社長期預け金	32,189	35,168
関係会社長期未収入金	—	22,395
その他	22,474	18,532
貸倒引当金	△4,743	△5,090
投資その他の資産合計	74,365	90,360
固定資産合計	507,766	551,536
繰延資産	603	452
資産合計	596,177	641,057

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,530	7,846
1年内返済予定の長期借入金	7,299	8,554
未払金	10,002	7,045
未払費用	23,074	19,164
未払法人税等	46	177
賞与引当金	80	489
その他	17,732	16,899
流動負債合計	65,765	60,177
固定負債		
社債	104,585	114,640
長期借入金	4,180	—
退職給付に係る負債	367	461
関係会社長期預り金	6,635	7,249
リース債務	57,464	57,541
その他	7,862	12,119
固定負債合計	181,096	192,011
負債合計	246,861	252,189
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,829	18,829
利益剰余金	338,932	359,885
自己株式	△7,317	△7,317
株主資本合計	350,542	371,494
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△16	58
為替換算調整勘定	△1,287	17,230
退職給付に係る調整累計額	18	25
その他の包括利益累計額合計	△1,285	17,314
新株予約権	58	58
純資産合計	349,315	388,867
負債純資産合計	596,177	641,057

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
売上高	56,323	79,305
売上原価	26,406	35,446
売上総利益	29,916	43,858
販売費及び一般管理費	29,082	33,132
営業利益	833	10,726
営業外収益		
受取利息	58	138
受取配当金	7	17
為替差益	11,773	8,620
賃貸借契約解約益	8,550	18,698
リース解約益	1,802	4,150
その他	72	240
営業外収益合計	22,264	31,867
営業外費用		
支払利息	2,602	2,469
社債利息	3,778	4,715
支払手数料	4	6
持分法による投資損失	3,063	6,773
その他	220	223
営業外費用合計	9,669	14,188
経常利益	13,428	28,405
特別利益		
固定資産売却益	1	22
関係会社清算益	28	—
その他	2	—
特別利益合計	33	22
特別損失		
固定資産除売却損	1,331	2
臨時損失	818	—
不法占拠に伴う損失	20	—
特別損失合計	2,170	2
税金等調整前四半期純利益	11,291	28,425
法人税、住民税及び事業税	246	187
法人税等調整額	4,276	7,285
法人税等合計	4,522	7,473
四半期純利益	6,768	20,952
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,768	20,952

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	6,768	20,952
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△22	74
為替換算調整勘定	8,559	18,518
退職給付に係る調整額	11	7
その他の包括利益合計	8,548	18,599
四半期包括利益	15,317	39,552
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,317	39,552
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	11,291	28,425
減価償却費	9,317	8,401
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	1,329	△20
持分法による投資損益(△は益)	3,063	6,773
賃貸借契約解約益	△8,550	△18,698
リース解約益	△1,802	△4,150
不法占拠に伴う損失	20	—
受取利息及び受取配当金	△65	△156
支払利息	2,602	2,469
社債利息	3,778	4,715
為替差損益(△は益)	△11,668	△8,722
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,782	17
売上債権の増減額(△は増加)	6,956	3,515
棚卸資産の増減額(△は増加)	16	△1,707
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,962	263
未払消費税等の増減額(△は減少)	170	△1,501
未収入金の増減額(△は増加)	△343	△783
未払金の増減額(△は減少)	347	△2,269
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1,243	△448
その他の流動負債の増減額(△は減少)	1,727	△2,836
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△52	△774
その他	498	585
小計	13,650	13,097
利息及び配当金の受取額	66	156
利息の支払額	△4,006	△6,686
賃貸借契約解約による収入	4,636	—
不法占拠に伴う流出額	△20	—
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△367	△72
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,959	6,494
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,675	△5,592
有形固定資産の売却による収入	14	21
無形固定資産の取得による支出	△220	△233
投資有価証券の取得による支出	△4	△5
短期貸付けによる支出	△2,000	—
短期貸付金の回収による収入	910	1,500
長期貸付金の回収による収入	1	208
その他	△2,066	296
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,039	△3,803
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△6,368	—
長期借入金の返済による支出	△1,811	△3,677
セール・アンド・リースバックによる支出	△384	△434
その他	△39	△34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△8,603	△4,146
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,146	2,369
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	464	912
現金及び現金同等物の期首残高	30,546	35,793
その他の現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,437	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,572	36,705

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書注記)

(臨時損失)

前第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日 至2022年6月30日)

当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を背景とした、フィリピン政府や、PAGCOR (Philippine Amusement and Gaming Corporation: フィリピンカジノ運営公社)の要請に基づき、統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」における営業停止した施設の当該期間に係る固定費(減価償却費等)を、特別損失に計上したものです。

当第2四半期連結累計期間(自2023年1月1日 至2023年6月30日)

該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日 至2022年6月30日)

(固定資産除売却損)

建設業者から納入した固定資産の瑕疵に関して係争中でありましたが、回収可能性を再検討し製品の瑕疵を証明することが困難と判断、当該固定資産を除却することとし、当該影響額1,181百万円を含む1,331百万円を当第2四半期において固定資産除売却損として計上しております。

当第2四半期連結累計期間(自2023年1月1日 至2023年6月30日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書注記)

その他の現金及び現金同等物の増減額は、当社グループの連結子会社TIGER RESORT, LEISURE AND ENTERTAINMENT, INC.において一部の預金口座が凍結されていることにより、当該預金が随時引き出し可能な預金に該当せず、四半期連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物の定義を満たさなくなったため、当該金額を減額しているものです。

(5) 追加情報

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。